

大学英語教育におけるデジタルメディア活用の可能性

—専門科目を中心に

Possibilities of teaching English with digital media — examples of academic subjects at universities

二ノ宮寛子、二ノ宮靖史
Hiroko Ninomiya, Yasushi Ninomiya

目次

1. はじめに
2. 大学英語教育におけるデジタルメディア活用の可能性—専門科目を中心に
3. おわりに

1. はじめに

人間が言語によって意思を伝える手段には、主に音声と文字という形式がある。音声は産出されるとすぐに減衰し、消えていく。文字は記されれば時間が経っても残り得るが、毀損・滅失の可能性が高く、また、筆写するには時間と手間がかかる。音声・文字という存在は、音声が調音器官によって産出され、文字が手によって記されるという本来的な意味では、情報の伝達という機能において時間上・空間上の制約がある。

これらの制約を減ずる手段として現代の技術で講ずることができるのは、機械による録音・撮影である。録音によって音声は記録され、言語音の弁別のみならずアクセント・イントネーション・プロミネンス・声質等の超分節的な情報を伝達することが可能になる。また、撮影によって文字は容易に複写され、書かれた内容は広範囲に伝播され得る。さらに、人間が言語を用いて意思伝達をしている様子を動画によって撮影することで、言語使用に付帯する詳細な情報を記録・保存・伝達することが可能になる。

さらに、機械による録音・撮影の方法をデジタル化することによって、時間上・空間上の制約はさらに少なくなる。デジタル化とは、原理としては情報を数字に変換することであるが、この方式で情報を記録することは、データの保存や複写における質の劣化を理論上はゼロにし、数字に変換したデータを電子計算機によって記録・処理することによって情報の入手／加工／提示の際にかかる時間や手間を減ずる。

また、この四半世紀程で個人によるデジタル情報処理が簡便に行なえるようになった。数

値演算、文書作成、録音、録画等、個人が短時間で情報を入手し、加工し、提示することが容易になった。このような個人によるデジタル情報処理が普及した背景としては、情報処理学会歴史特別委員会(1998: 309-315)が述べているように、電子計算機のダウンサイジング・オープン化・インターネットの出現があるだろう。この三つの要素により、個人による情報の記録・複製・送付が容易になり、時間・距離の制約を減ずる役割を果たしたのである。

以上のことは大学における英語教育にも大きな影響を与えている。特に教員にとっては、授業計画立案・教材準備が効率的に行なえるようになり、授業においても情報の伝達や提示が短時間で行なえるようになった。授業を運営する方式の一例としては、パソコン・プロジェクター・スピーカーがあれば、必要な情報をほとんど提示できるようになった。

本稿では以上のような情報のデジタル化と電子計算機による情報処理の仕組みをデジタルメディアと総称し、その特性に着目することによって、デジタルメディアが大学での英語教育にどのようにかかわっているかについて専門科目を中心として論じ、デジタルメディアを活用した英語科目の可能性について考察していく。

2. 大学英語教育におけるデジタルメディア活用の可能性—専門科目を中心に

2.1 文学作品を扱う授業におけるデジタルメディアの使用例

一般的には、講読や概論などの文学作品を扱う授業におけるメディアの使用というと、DVDなどの媒体で、授業中に取り扱う文学作品の映画版などを鑑賞するということが挙げられると思われるが、それだけではない。インターネットにつながっている情報リソースを活用することでさらに学習を深めることができる。例えば、インターネット初心者にもよく閲覧されるサイトである「ウィキペディア」では作家、主な作品の登場人物、あらすじ、そして書かれた時代背景などが各項目としてまとめられている¹。また、フリーブックのサイトにアクセスすれば、著作権の切れている作品をダウンロードすることもできる。特定の作家や作品においてはファンサイトも存在しており、そこに書かれている作品についての論評を読むこともできる。以下、授業でのメディアの具体的な使用例について述べる。

2.1.1 「英米文学概論」

この科目は筆者(二ノ宮寛子、以下HN)が担当しているもので、國學院大學北海道短期大学部総合教養学科で中学校教諭二種免許状(英語)取得を目指している1年生が対象である。

¹ インターネットに掲載されている情報の利用については、誤謬や偏りのある可能性を考えると、教員による指導が必要だろう。

概論のクラスであるので通常は英米文学における著名な作家と作品の紹介をし、英米文学の基礎的な理解を促すことが目的である。それと同時に短い時間ではあるが、将来英語教員になることを目指している履修生が英米文学を深く学ぶ動機を持つことができるよう、プロジェクト形式で、教材としての文学作品の使い方も考えさせる機会を作っている。時間数としては全30回のうち、5～6回をプロジェクトに使用している。ハンドアウトは下記の通り（一部加筆）である。

「英語の文学作品を使用した教材を作成し、模擬授業を行なう」

取り上げる作品：授業で取り扱った文学作品、あるいは作家の作品を使用する

時間：15分（教案の説明と模擬授業を行なう時間）

英語教育の分野：リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング、総合

プロジェクトのプロセス：

- ①ターゲットの設定
- ②今まで受けたことのある文学作品を用いた授業を思い出し、そのアイデアをリストアップ。なければ受けてみたい授業を想像する。
- ③再現してみたい、あるいはやってみたいアイデアを選ぶ。
- ④教材にする作品を選ぶ。
- ⑤作品の箇所を選ぶ。
- ⑥練習問題の種類について考える。
- ⑦その箇所の学習に必要な練習問題を考える。
- ⑧教材を作成する（作品の一部を必要なメディアで揃え、それにあった問題を作成）。
- ⑨教案を作成する。
- ⑩教室で模擬授業を行なう。
- ⑪クラスメイトからのフィードバックを受ける。

上記のワークシートを使用しての授業の様子は以下の通りである。

①は、中学英語教員を目指す学生なので、中学生に設定するものがほとんどであった。②では、高校時代に受けたことのある授業の例で、視聴覚教材(主にDVDで映画化された作品を視聴)を使用した授業を挙げる者が多かった。③②では作品紹介とDVD視聴で終わることが多かったが、それに原文あるいは英語学習者や子ども向けにリライトされたものの講読やDVDの作品の音声を使用したリスニングの練習問題、サマリーを作成し、その穴埋めなど

を追加していた。④『ロミオとジュリエット』、『ハムレット』、『ガリバー旅行記』、『不思議の国のアリス』などが選ばれた。⑤ストーリー上重要であるシーンの中からターゲットに学習させたい言語項目や文化背景の知識を、興味を持って取り組ませることのできる箇所が選定された。⑥⑦穴埋め式を中心に、サマリー、学習させたい文法項目を含んだ文章、有名なセリフなど。⑧映画の作品はDVDで、原文はほぼインターネットのフリーブックのサイトから入手していた。⑨練習問題や視聴覚教材の提示の方法、話し方や準備の量など、適切なフィードバックが行なわれた。

このような科目を履修する際には、フリーブックのサイトからダウンロードした作品を、ワープロソフトの機能である辞書機能を利用して、知らない単語はカーソルを動かして訳語を参考にしながら読み進めることができるし、翻訳ソフトを使用すると、かなり不自然ではあるが全体的に日本語に変換することもできる。そのため、履修生たちはインターネットで原文を入手してそれらの機能を駆使して解説しつつ、図書館に置かれている解説書や翻訳書をウィキペディアや文学作品を解説しているサイトと同時に利用して、作品の理解を深めていた。作品の楽しみ方の一環として、語義のとらえ方や文法的な文章の区切り方、文や段落、あるいは作品全体から想起されるものをとらえることなどをリーディング指導として行っており、授業中に英米文学の主な作品（一部を原文あるいはリライトされたもの）を読む際にそれらの方法を応用させている²。

2.2 映像を教材の素材として使用する際のメディアの使い方

教材として使用することのできる映像には、映画の他にもドラマやテレビコマーシャルなどがある。映画の場合、一般的には映画館で鑑賞するような作品は（ショートショートは別として）120分前後のものが多いが、テレビでのシリーズ放映を念頭に置いているドラマは30分や60分程度のもので多く、またテレビコマーシャルに至っては数十秒から数分の作品がほとんどである。前述したように、市販されている作品の場合にはインターネット上にその作品に関するサイトが存在することが多く、それらを閲覧することで知識を深めることができる。また、映像（あるいは音声だけでも可能であるが）を教材の素材として使用する際には、適切なソフトを使用すると比較的簡単に視聴覚教材に加工して、映像の鑑賞と並行して様々な問題の解答や練習をすることができる。以下、「映画で学ぶ英語」と「言語圏文化論」における使用例を述べる。

² この方法は、英語文学作品の講読を行なう科目においても有効であろう。

2.2.1 「映画で学ぶ英語」

これは筆者HNが立教大学において担当した科目で、2年生以上の全学部の学生が選択科目として履修できるものであった。一般的に映画は120分前後の作品が多いので、90分の授業時に教員が教材として扱うのは25分で1エピソードが完結するドラマ（『フルハウス』、『フレンズ』など）を用い、学生にはグループで映画を調べて発表するプロジェクトを与えて映画を取り扱わせた。

教材作成には大学で採用していた内田洋行の「PC@LLソフトレコーダー Speaking」を使用して、映像と音声の素材を加工し、教材として利用した。これはマルチメディア語学教育支援システムである。これを利用することで市販や自作の視聴覚素材を音声や映像の素材として切り取り、教材用に編集して使用することができる。波形によって表された音声を見ながら発音の特徴を把握し、自分の発音の波形と比べたり、リスニングを伴う練習問題を自分のペースで行なったり、練習した音声や解答などを提出したりすることができる。以下、ワークシート（一部加筆）と授業例を記す。

Full House - 1 - 22			
Name[_____]			
<u>Main characters</u>			
Danny	the father of three daughters (his wife has passed away)		
DJ	the eldest daughter		
Stephanie	the second daughter		
Michelle	the youngest daughter		
Jesse	a younger brother of Danny's wife, a musician, and a pest controller		
Joey	a friend of Danny, and a comedian		
A. Check the words below.			
autograph	cut school	phony	classy
misconduct	dudette (俗)	under the weather	bust(ed)
rinse cup	get-well card	lecture	

B. Watch the episode without subtitles once and follow the instruction below.

List up words and expressions you found new.

C. Now, open the Speaking file of this episode and follow the instructions. You will have 15 minutes.

Scene A (4'00"-5'10")

1. What is DJ' s friend' s name?
2. Why does DJ want to cut school?
4. Dictate at least two sentences from the scene.

Scene B (11'10"-12'10")

5. How does DJ convince Joey that she should go to school?
6. Dictate at least two sentences from the scene and practice those by comparing the waveform of the original.

Scene C (22'20"-23'40")

7. According to Danny, what was the worst thing DJ did today?
8. Dictate at least two sentences from the scene and practice these sentences to remember them.

D. Watch the episode with subtitles and follow the instructions below.

9. Make a summary of the episode in 100 words.
10. Write any comments on this episode.

Answer Keys:

A.

Words

サイン 学校を休む うそっぽい かつこいい 非行 dudeの女性形(すごい女)
体の具合がよくない 失敗した マウスウォッシュのカップ お見舞いカード
お説教

B.

1. Answers vary.

2. Kimmy

3. Because she wants her favorite singer, Stacey Q's autograph on that day.

5. First she said she was sick, then she showed him that she became alright to go to school. Joey thought she decided to go to school because she was willing to take a test there.

7. The worst thing DJ did today was that she was selfish. Because of her selfishness, she lied and hurt other people.

9. Answers vary.

上記のワークシートを使用しての授業の進め方は以下の通りである。

①通常は、作品の背景を調べるためにインターネットで検索し、グループのワークシートを完成させることから始める。このエピソードはシーズン1のエピソード22であり、このエピソードの前に同じシーズンのもを見ていて作品の基本的な情報はすでに履修者に理解されているため省略している。ドラマシリーズを最初に見る場合には、製作年・ロケーションの国と地域・製作者・登場人物などをそのドラマの公式ホームページなどを閲覧して基本情報を把握する機会を作っている。

②まず字幕なしで取り扱うエピソードを全て視聴させる。登場人物のリストを見ながら視聴し、新しい表現や単語などではできる限りメモを取らせる。

③「PC@LLソフトレコーダー Speaking」を使用してエピソード中の数シーンを集中的に視聴しつつ練習問題を解き、ディクテーションをした文章の発音練習を、オリジナルと学習者の波形を比較しながら行なう。

④エピソードの全体を通して視聴し、英文100語程度でストーリーをまとめさせ、感想を英語で書かせる。

この授業の持つ意義・効果は以下の通りである。

①インターネットを使用して作品の背景(登場人物の相関関係、作品のロケーション、時代背景など)を調べ、把握することで視聴する回数と同じでも、理解度が高くなる。③クラス全体で同時に進める箇所もあれば、リスニングの問題など、再生する速度を変化させて理解を促したり、個人のペースで進めたりする箇所もある。④全体の視聴を行なうことで②で使用したシーンの復習と共に前後関係の理解を促進する。英語や日本語の字幕、あるいは字幕なしに変えるなど、学習者のレベルに合わせて繰り返し視聴させることで、学習者は自信をつけることができる。

2. 2. 2 「言語圏文化論」

これは明治大学で筆者HNが担当した「言語圏文化論」でのメディア使用例である。この科目は選択科目で、法学部の全学年の学生が履修することができ、さまざまな言語圏を専門に研究している教員がそれぞれの言語圏について論じる科目である。本科目ではDVD『世界のCMフェスティバル』の中から英語圏のものを集めて教材を作成し、テレビコマーシャルに盛り込まれている文化的な背景について論じた。前述したようにテレビコマーシャルは数秒から数分間にまとめられたものが多く、そのコマーシャルで取り扱っている商品やサービスを短時間で視聴者に定着させその消費を促す目的で作られているので、注意深く選ばれた言語表現や映像が使用され、その言語圏の文化的な要素が多く含まれている³。

以下、テレビコマーシャルを用いた教材のワークシート(抜粋)と授業例を記す。

1. Love it or hate it? (track 54&56)

- | | |
|-------------------------------|---|
| a. どんな場面ですか。 [|] |
| b. Coffee ?にはどんな意味があるでしょうか。 [|] |
| c. Messとは何ですか。 [|] |
| d. Marmiteとはどんな商品ですか。 [|] |
| e. このCMの面白いところはどこですか。 [|] |

Sorry about the mess.

It's nice.

³ これについての詳細はNarikiyo (1999)を参照されたい。

Coffee?

Great.

You either love it or hate it

Marmite

2. My Favourite Meal (track 17)

- a. 画面の二人の関係は何ですか。 []
- b. 何について話していますか。 []
- c. 二人の出身はどこですか。 []
- d. その商品はどんな入れ物に入っていますか。 []
- e. 下線を日本語に直してください。 []

Yes, ah, there is a box...

...a kind of box with a shape like a house.

And on the top, you can carry...there is an M bar to carry

Then there's some...inside

Every time you buy a Happy Meal you can get a small free gift...a lot of it.

A Toy and a Happy Meal...

A Happy Meal at McDonald's makes a child's day.

Answer Keys

- 1. a. 男女が女性の部屋に入ってコーヒーを飲もうとしているところ
 - b. 上り込んだ部屋でコーヒーを飲むことで、滞在時間を延ばす
 - c. ちらかっている状態
 - d. 好き嫌いのはっきりとしているイーストでできた塩気のあるジャム状の食品（パンに塗る）
 - e. マーマイトで朝食をセクシーに想起させつつ、男女の関係と同じく好き嫌い（うまくいったりいかなかったり）があることを自虐的に消費者への訴求に利用していること
-
- 2.a. 兄妹
 - b. マクドナルドのハッピーミール

- c. シンガポール
- d. 家の形をした箱でMの形の取っ手がついている
- e. マクドナルドのハッピーミールはお子様の一日を幸せなものにします。

授業例

1はマーマイトというイーストが原料で、イギリスで広く朝食のパンに塗って食べられている独特な味のジャム状の食品のコマーシャルである。おそらく初めて女性が部屋に呼んだであろうデートの相手との会話が流れる。コーヒーは部屋に呼びたい相手を誘う際によく使われるアイテムであり、翌朝2人で食べることになるかもしれない朝食をマーマイトで想起させ、その食品を好む人と好まない人がいることと、恋愛がうまくいくかどうかをかけている。イギリスだけでなく他国での朝食についてや恋愛事情についてなど、履修者に伝えたい文化的な項目が、このコマーシャルを研究することでたくさん浮かんでくる作品である。

2はマクドナルドのハッピーミールという子ども向けのセットのコマーシャルである。シンガポールで作られたコマーシャルで、兄妹がハッピーミールへの情熱を自然体で語る形式である。自分の周囲の子どもに同じ興奮を味わってほしいと大人に思わせ、同じ気持ちになってみたいと同世代の子ども達に思わせる手法がとられている。また、高い子どもの声が入ったコマーシャルはどの年代にもアテンションゲッターになる。兄妹が情熱を持ってハッピーミールについて語る場面には商品そのものは出てこないのに、視聴者にどんな商品なのか想像させる機会を作っているところも効果的な手法のひとつである。世界でのファーストフード（特にマクドナルド）の業態やシンガポールでの外食文化や公用語についてなど、短いコマーシャルではあるが、これをきっかけにプロジェクトをふくらませることができる作品である。

3. おわりに

本稿では、言語における音声と文字の特性について考察し、それらを記録する録音・撮影という技術の意義を論ずるとともに個人によるデジタル情報処理の利便性の背景について検討をし、それらをふまえて大学での英語教育におけるデジタルメディア活用の可能性について専門科目を中心に論じてきた。「英米文学概論」「映画で学ぶ英語」「言語圏文化論」という各科目において、教材・資料がデジタル化され、電子計算機によって情報が処理されることによって、資料の入手／教材準備／教室での教材提示・使用という一連の作業が個人によって効率的かつ臨機応変に行なえることを示すことができた。本稿で取り扱った論題について

考える際に忘れてはならないのは、情報の入手／加工／提示の技術は時が経るにつれて変化し得るもので、新しいものが普及すれば従来のものは廃れる可能性が高いが、その技術によって記録される言語・文学・文化という人間の知識・営為を技術の変化とともに忘れ去ってはならないということだろう。

参考文献

- Barnhart & Van Atta (1987) “Full House: Complete First Season” ABC
- 情報処理学会歴史特別委員会編 (1998) 『日本のコンピュータ発達史』 オーム社
- Narikiyo, H. (1999) “A Proposal on Language Teaching: TV Commercials as Good Teaching Material.” *The Journal of English Language Teaching Vol.10*, 103-118, The Youngnam English Teachers Association, Korea
- ブーヴィエ, J. C. 編 (2003) 『世界のCMフェスティバル 第2部』 学習研究社
- “ABC family” <<http://abcfamily.go.com/shows/full-house>> (2011年11月30日アクセス)
- “Project Gutenberg” <<http://www.gutenberg.org/>> (2011年11月30日アクセス)
- “Wikipedia” <<http://www.wikipedia.org/>> (2011年11月30日アクセス)